民俗学

８．５　まつるアンケート抄-Q.私のお祭り体験？-

Facebook&twitter（現 X）「とある民俗学講師の補足メモ」

・まつりの前近代：周期化・集団化・定式化した呪術としてのまつり、義務というより権利としてのまつり
・まつりの近代／現在：ハレ（非日常）／ケ（日常）区分の曖昧化、コミュニティとまつりの変容（町おこし、観光化…）
・まつりをめぐる多様な主体：男と女、大人と子供、家格の高下、ウチとソト…、その「働きかけ」に応じた意味と機能
・「おまつりを続けていること」はそれを支えるコミュニティのバロメーター

［講？］私の実家（埼玉県久喜市）には八幡様を祀る社があり、毎年十五夜の日に親戚一同が集まって奉納をしている。何をしているのかわかっていなかったが、その後、親戚で食事を囲むのが小さい頃とても嬉しかった。

［お水取り］私は東大寺学園に通っており、卒業後の３月に、奈良市の東大寺で行われる伝統行事「お水取り」に誘導員として参加した。お水取りは、奈良に春の訪れを告げる伝統的な宗教行事であり、特に籠松明の時間には、国内外から非常に多くの人々が訪れていた。会場には日本人だけでなく外国人の姿も多く見られ、この行事が国境を越えて関心を集めていることを実感した。私はそれまで、お水取りを一人の観客として見る機会はあったが、今回は誘導員という立場で参加し、一応行事を支える側の一員となった。東大寺の法被を着て多くの参拝者や観光客が安全に行事を楽しめるように案内することには責任もあったが、普段は見ることのできない運営側の視点から伝統行事に関われたことは貴重な経験だった。伝統行事は儀式を執り行う人々だけでなく、それを支える多くの人々によって成り立っているのだと感じた。

［だんじり］毎年５月、兵庫県東灘区ではだんじり祭りが行われます。私が住んでいた田中町では、山王神社が出すだんじりを子どもたちも引くことができ、私も小学１年生の時に参加しました。朝に始まって空が少し暗くなってきたくらいの時間まで引き続け、引き終わった後はヘトヘトで地面に寝転がっていたのを覚えています。そんなとき、運営の人が子供全員分のガリガリ君を買ってきてくれて、疲れた体に染み渡って、感動するくらい美味しかったです。

［祇園祭］祇園祭の前祭でトリを務める船鉾にて、運営のお手伝いを三年も経験させてもらった。私たちが行うことは、７月初めからの粽作りの手伝いから、鉾建て中の交通整理、巡行が近づき、屋台が軒を連ねる時期になると、町会所にて船鉾の拝観や説明を行うなど、かなりお祭りの中心に関わらせてもらうことができた。また、巡行当日は男子のみだが、鉾の曳き手として巡行に参加することができる。町会所には神功皇后（船鉾は神功皇后の三韓征伐を題材としている）、海の神である住吉神、安曇磯良の人形が飾られ、神功皇后の腹巻は安産のお守りとされ、巡行後に授与される。この町会所は、大学（立命館）の京町家キャンパスとして利用できるらしいが、町会所の維持をも担っているのだろうか。

［夏祭］香川県三豊市仁尾町で行われている竜まつりに参加しました。昔の仁尾町が水不足に悩んでいたことを由来とした雨乞いのお祭りです。みんなで伝統的な踊りをした後、竹で作られた大きな竜に水をかけます。当時は「水不足に悩んでいたのに、なぜ貴重な水を竜にかけることに使ってしまうのだろう」と、子どもながらにとても不思議に感じました。

［秋祭］静岡県磐田市で毎年 10 月第 2 週に行われる六社神社祭典に幼い頃から参加している。この祭では、18〜19 時頃、各組の屋台が四つ角で一同に会し、祭囃子が流れる中、「そらやれ」の掛け声とともに「練り」と呼ばれる、組んずほぐれつの揉み合いを行う。組も、大人も子どもも、男も女も関係ないどんちゃん騒ぎだ。「練り」に参加すると足は踏まれるわ、お酒を浴びせられるわ、いろいろとカオスだが、喉を枯らしながら地域の人々と共に祭を楽しむ雰囲気が好きだ。

［亥の子］広島県福山市沼隈町の奥組という子供会では、毎年 11 月頃、「亥の子」が行われ、私は小学 6 年まで毎年参加していた。子どもたちが縄を結び付けた亥の子石を地面に打ち付けながら、地域の家々を回る行事である。無病息災や五穀豊穣、子孫繁栄などを願う意味がある。当時は、お小遣いをもらえる行事という認識であった。

［時代祭］学内で「時代祭参加者募集」のチラシを見かけ、もともと歴史が好きだったこともあり、応募して参加することにした。龍谷大学は例年、江戸時代の行列の一部を担当しており、私も武士の衣装を着て、「徳川城使上洛列」の一員となった。最初は草履で歩くのは大変かもしれないと心配したが、意外にも履き心地がよかった。衣装にはボタンやジッパーなどは一切使われておらず、すべて帯や紐で固定されていたことにも驚いた。何より驚いたのは、頭にかぶっていた笠の実用性。単なる装飾品のようなものだと思っていたが、実際には防水性が非常に高かった。薄い竹の葉を重ねて作られているだけなのに、これほど丈夫で雨にも強いとは思わず、江戸時代の技術力に感服した。大通りの真ん中を歩くという、なんとも贅沢で華やかな散歩だった。道の両側では百姓たちが見送り、本物の上洛行列の一員であるように錯覚した。

［金魚まつり］愛知県弥富市は、金魚の養殖が盛んな地域であり、市の特産品である金魚の魅力を広めるため、「やとみ金魚まつり」が開催されている。金魚すくい、金魚と触れ合う体験、金魚の絵付けなど、子どもから大人まで楽しめる催しが行われる。伝統産業を次世代に伝え、観光客を呼び込み、地域の活性化にもつながる重要な行事だと感じた。

［御柱祭］地元・長野県辰野町にて小学 3 年の時、日本三大奇祭である御柱祭があり、参加した。祭りが近づくにつれ、公民館で「木遣り」と呼ばれる独特な声出しの練習が始まり、当時は困惑しつつも掛け声を覚えた。本番ではよく分からないまま木の上に立ち、掛け声を出せと言われたので大声で出したら、大人達が歓声を上げてくれて気分が良かった。

［式年遷宮］三重県伊勢市の伊勢神宮で式年遷宮を経験した。20 年に一度、神殿を建て替えるためにヒノキを各町の団体ごとに神輿のようなもので運び、祈りを捧げるものである。伊勢で 1 番大きなイベントと言っても過言ではないため、この日は自分のように地方に散らばった伊勢市民が一同にあつまり、とても活気が溢れる。個人的に好きなポイントは各町ごとに異なる法被を着るところで、「自分達はこの町の一員なんだ」と一体感が生まれる点である。

［体育祭］高知市の土佐高では、毎年、高校３年生が体育祭でやぐらを作ることになっている。３、4 階建て（５m規模）、各クラスごとに決めたキャラクターをデザインした大掛かりなもので、背景のペイント、鉄骨の運搬から組み立てまで、すべて生徒だけで行う。毎年 9/23 に開催される 1 カ月以上前から早朝、放課後の時間を利用して全員が協力して作り上げる。やぐらは運動会全体のシンボルであり、各応援団の拠点にもなることで、結束も強くなる。

［体育祭］私が通っていた富山中部高校では、毎年の体育祭がかなり重要なイベントとされていた。一カ月前から準備期間が始まり、放課後は全生徒がそれぞれ応援練習や競技の練習をする。競技名がいちいち特殊で、障害物競走は「東海道五十三次」、タイヤ引きは「地上最大の作戦」、騎馬戦は「四神時代」などと呼ばれていた。団は朱雀・白虎・玄武・青龍の 4 つで、毎年玄武が優勝するのがお決まりだった。しかし私が 3 年生の代で、私の所属する青龍団が数十年ぶりに優勝し、団員たちはお祭り騒ぎになった。団の同窓会長から「この代は団の歴史に残るぞ」と言われたのを覚えている。

［学園祭］スピードスケート部に所属している私は、今年の NF で吉田南のグラウンドでかき氷屋を出店した。はじめは楽しそうだなーとしか思っていなかったが、準備が進んでいくにつれ、よく考えたら寒くて売れないんじゃね？という考えがよぎってきた。当日、案の定、寒波で冷え込み、とてもかき氷が売れる気候ではなかった。しかし、日中日差しが差す時間帯にはチャレンジャーの人や小っちゃい子どもが想像よりも買ってくれ、赤字を取り返すまではいかないものの、それなりの売上をあげた。商売としては失敗だが、売っている自分たちは楽しかったし、これが祭りの本来だと思った。